

社会教育研究部門

「教育と公共」研究部会（第50回）

日時：2023年9月11日（月）13：30～16：30

場所：オンライン

出席：上野正道・浅井幸子・狩野浩二・田嶋一・仲田康一 各兼任研究員

山口和人所長・鈴木悦子・金沢千秋・川上智子（野間教育研究所事務局）

欠席：藤井佳世 兼任研究員

内容：（1）仲田研究員：M・フィールドディングの「コモン・スクール」概念の来歴—英国における公教育の位置づけと関わって—の研究報告

1. はじめに：M・フィールドディングの所論への注目
 - ・英国の公教育制度そのもののあり方の問題
 - ・フィールドディングによる「コモン・スクール」の提起
2. フィールドディングの教育研究歴
 - ・1973年の論文「中等教育における民主主義：学校協議会と共有された責任」
 - ・1988年の論文「民主主義と友愛」
 - ・1996年から開始された Student as Researchers プロジェクトなどで、「生徒の声」実践を主導。「ラディカルな同僚性」の概念を提起
3. コモン・スクールの来歴をめぐって
 - ①「コモン」でない学校制度の状況
 - ②プリンク「コモン・スクール」論の発展

（2）上野研究員：Gert Biestaの論文「What Kind of Society Does the School Need?（学校にはどのような社会が必要か）」の紹介

1. The Modern School, Solution or Problem?（近代の学校、解決策か問題か?）
2. A Question of Quality（質の問題）
3. The Purposes and Dynamics of Education, and Doing What Needs to Be Done（教育の目的と力学、なすべきことをなす）
4. The Double History of the Modern School（近代の学校の二重の歴史）
5. Changing the Question（問いを変える）
6. The Rise of the Impulse Society（衝動社会の台頭）
7. The Urgency of Education（教育の緊急性）
8. Can the School Still Be School?（それでも学校は学校たりうるか?）

・次回研究会 10月20日（金）13：00～

・次々回研究会 11月24日（金）13：30～